

平成16年度 第5回（平成16年11月9日）図書館運営協議会会議要旨

1. 出席者

運営協議会委員（9名）

小杉山会長・中多副会長・三輪委員・矢口委員・加藤委員・奥津委員・埜崎委員・日高委員・山本委員

図書館側委員（4名）

鹿島中央図書館長・広田奉仕係長・坂井視聴覚係長・林田戸山図書館長

図書館事務局

佐藤管理係長・秋山管理係主査・東主任主事

2. 場所 中央図書館

3. 開会

【小杉山会長】

ただいまから平成16年度第5回図書館運営協議会を開催いたします。

本日の議題は、協議事項3件です。

はじめに、「ビジネス支援サービス」について、事務局から説明をお願いします。

【秋山管理係主査】

ビジネス支援サービスについて資料説明。

新宿区立図書館では、角筈図書館を平成元年の開館以来、ビジネス支援の中心館と位置づけ、ビジネス関連の資料を収集しています。現在の蔵書数は約13,000冊、区立図書館全体では50,000冊を超える蔵書があります。

また、新宿区では、区立産業会館（B I Z新宿）を平成14年12月に開設し、区内産業活性化を図るため、経営改革や新産業の創出を促す中小企業支援の拠点としてご利用いただいています。

（品川区では、平成16年7月、大崎図書館の2階に「ビジネス支援図書館」を開館しました。）

【奥津委員】

区立産業会館（B I Z新宿）と図書館は連携していますか。

【鹿島委員】

現在、B I Z新宿にはビジネス用の雑誌はあるが、図書はありません。商工相談、空き店舗状況の提供、融資相談等を行っています。また、創業支援講座、女性の起業支援等も行っています。

角筈図書館は立地条件的にもビジネス本に力を入れています。年間約100万円をビジネス本収集に振り向けています。

B I Z新宿と図書館の間では、資料の相互貸借は行っておりません。ビジネス支援サービスを行う場合の役割分担は商工会議所等を含めて今後の課題です。

【中多副会長】

ビジネス支援では外部のデータベースが使用できることが重要だと思いますが、B I Z新宿では備えていますか。

【佐藤管理係長】

現在は、備えていません。

【中多副会長】

B I Z新宿と図書館のどちらかで備える必要はあると思います。横の連携・役割分担を十分に行い、あらゆる面でそれぞれの予算を有効に使っていくことが必要です。

【鹿島委員】

品川区のビジネス支援図書館は、区の産業振興課と品川図書館が連携して設置しました。

今後、東京商工会議所との連携も必要になると思います。

【山本委員】

品川区のビジネス支援図書館では、有料コピーサービスがあるとのことだが、他区の状況はどうか。ビジネスマン対象だと開館時間が問題です。

【鹿島委員】

図書館資料のコピーは有料で行っています。品川区でも電子情報をプリントするのはコピーサービスとのバランスをとるため有料としています。

【佐藤管理係長】

ビジネス面でのレファレンスが現状では十分でないのは事実です。

【三輪委員】

女性の再出発・再就職のための資料はどの程度集めていますか。男性サラリーマンだけを対象としたものから広げていく必要があります。

【広田委員】

女性のビジネス支援の資料数については確認していません。

【埜崎委員】

(本日机上配布の資料にある)「なるには本」とは何ですか。

【広田委員】

色々な職業につくための方法や専門家になるための勉強の仕方などが書いてある本です。

【奥津委員】

「なるには本」はヤングアダルト(中学生・高校生)の扱いになりますか。

【広田委員】

一般でもヤングアダルトでもどちらにも該当すると思います。

【矢口委員】

フリーターが就職しようと思った時の契機の間として図書館があって欲しい。資格をとるための職業訓練の場の紹介など情報提供が必要です。講座情報、リーフレット・パンフレットの充実も大切です。

【中多副会長】

今はもう存在しませんが、国際フォーラム内にあった都立生涯学習情報センターではすぐに役に立つチラシが置いてありました。本になる時は情報が過去のものになっているが、チラシ類は現在役に立ちます。

新宿区の商工関係のチラシ類を送ってもらって、1部は保存し、あとは自由に持って行ってもらうサービスを行っても良いのではないかと。図書館が講座を開催するというのは現時点では難しいだろうが、さしあたってできることはそういうことではないか。

【広田委員】

図書館に届いた資料については、地域資料・行政資料を3階の地域資料コーナーに配置しています。チラシ類は2階の情報コーナーで配付しています。行政資料など区の各部署で発行したものは、必ず図書館に送ってもらうよう各部署に通知しています。

【奥津委員】

新宿区の地場産業は染物と印刷ですが、ビジネス支援でこうした資料が充実していると、子どもたちの調べ学習にも役立つと思います。ビジネス支援から更にいろいろな人が利用できるようなれば良いと思います。

【中多副会長】

スペースの問題が大事です。場所の工夫は可能ですか。

【鹿島委員】

9館全体での計画蔵書量は58万1600冊でしたが、現在の蔵書数は約83万冊です。施設の現状をご覧になれば、ビジネス支援の空間を確保することは現行施設においては難しいことがわかると思います。

【加藤委員】

品川区のビジネス支援図書館の例ですと、外部から専門家を招いているようですが。

【鹿島委員】

専門的に行っている所を参考にしたいと考えています。浦安図書館でも経営コンサルタントに来てもらっています。図書館職員だけでは対応できないが、職員も知識が必要です。足りない所は、外部の力を利用したい。

【小杉山会長】

次に「児童サービス」について協議を行います。資料の説明をお願いします。

【広田委員】

現在、新宿区では「新宿区子ども読書活動推進計画」（計画期間 平成15年度～19年度）に基づき、子どもの読書活動を推進するとともに読書環境の整備

を積極的に進めています。とりわけ区立図書館では計画全体の2分の1にあたる28項目について取組みを行っています。

【埜崎委員】

小学校とか児童館に図書館の行事はお知らせしていますか。

【佐藤管理係長】

映画会や人形劇など図書館の行事は区の広報や館内掲示で周知しています。

【三輪委員】

読み聞かせは職員が行っていますか。ボランティアも関わっていますか。

読み聞かせは、子どもたちの顔を見て話すことが大切ですが、職員やボランティアが研修や専門家の話を聴く機会はありますか。

【広田委員】

中央図書館児童室では毎日読み聞かせを行っていますが、毎週日曜日と第2・第4土曜日はボランティアが行っています。

【佐藤管理係長】

図書館サポーターの方で読み聞かせに興味のある方を対象に、10月と11月に読み聞かせの講習会（各2日間）を実施しました。1日目が理論で、2日目が実践です。

【広田委員】

昨年度、学校図書館の先生やスタッフを対象に図書館の利用方法について研修を実施しました。学校図書館の先生から話し合いの要望があれば応じたいと考えています。

【中多副会長】

図書館では読み聞かせなど子どもと本を結びつけるための様々な活動が行われていますが、どのような本を選ぶか、担当者が本を読んで選んでいくことが大事です。本のコレクションが非常に重要です。

また、汚れた本でも大切な本は買い替えをしても保持するべきだと考えます。

【広田委員】

児童書の選書については、毎週金曜日に各図書館の児童担当職員が集まって選定しています。読み聞かせは、図書館の資料を使用しています。

【矢口委員】

読み聞かせは、できるだけいろいろな人に行ってもらいたい。女性だけでなく、男性も高齢者の方も。普段おじいさんやおばあさんと接しない人もそういう人と接する機会になるので検討して欲しい。

【広田委員】

図書館の児童担当職員にも男性がいます。読み聞かせも行っています。

【中多副会長】

図書館は社会教育機関であり、子どもたちの健全育成が大事です。優れた文化を子どもたちに伝えていくことが図書館の役割です。刺激的なものがあれば子どもはそっちに行ってしまう。地味でもしっかりしたものをコレクションし、読ませていく必要があります。書店にない本でも良い本を提供していく必要があります。

【奥津委員】

子どものニーズと、大人が子どもに読ませたい本には隔たりがあります。図書館では質の高い本を揃えて、子どもたちに読ませるように心がけてもらいたい。

【中多副会長】

図書館職員の理想や使命感と現実のニーズのギャップに悩むと思います。長く読まれていく本こそ図書館が収集すべきです。ちゃんとしたコレクションをして欲しいという声が住民からあがることは図書館にとっても心強い。

【小杉山会長】

おじいちゃん、おばあちゃんにとって、孫にどんな本を読ませたらいいか、相談する所がありません。そういう場所をつくって欲しい。

【埜崎委員】

私が行った山梨県の図書館では、職員の方が相談にのってくれました。

【小杉山会長】

子どもの健全育成、家庭の教育に父親も参加することが大切です。読み聞かせもやってもらった方が良いでしょう。

【中多副会長】

図書館で行事を行う目的は子どもにお話や絵本の世界を楽しんでもらうためですが、親子のコミュニケーションでは、毎日5分で構わないから親の声で読んであげることが親と子のつながりにとって大切です。

「耳からの読書」を家庭で行って欲しいというメッセージを図書館が伝えてもらいたい。

【矢口委員】

「本のプレゼント相談に応じます。」という図書館のキャッチフレーズなど遊び心があった方が良いでしょう。

【小杉山会長】

次に、「学校図書館との連携」について協議を行います。

【秋山管理係主査】

学校図書館との連携について資料説明。

【加藤委員】

中学校くらいになると図書委員が生徒にアンケートをとって図書を選定しているが、先程の伝えていきたい本については学校図書館にも必要ではないか。学校から要請がないからやらないのではなく図書館から働きかけていく必要があるのでは。

【鹿島委員】

子ども読書活動推進計画では「推薦図書リストと総合的な学習・調べ学習向け図書リストの作成」を平成17年度から実施することになっています。

【奥津委員】

現在、自分の子どもが通っている小学校では、今年は「国語」を研究テーマにしていますが、生徒たちが本を読むようになりました。学校が何を研究テーマにするかによって、子どもたちの本への興味の度合いも異なってきます。図書館では、どこの学校ではどういうことを行っているかを把握し、情報交換を

していく必要があるのでは。学校図書館のボランティアが公立図書館で勉強する場があったらいいと思います。

【広田委員】

平成16年度から団体貸出用図書費の予算がついています。学校図書館スタッフに集まってもらい、勉強会を開くような機会も設けていきたいと考えます。

【鹿島委員】

図書館職員が区内の学校の状況をすべて把握しているわけではありません。各学年の年間の学習スケジュールは把握しておいて対応できるようにしていく必要があります。物流の連携（団体貸出）とあわせて人の連携も大切です。

【広田委員】

今回、総合学習の一環として「図書館の利用の仕方」で区内中学校の3学級が来館しました。中学3年生になると「新宿区の環境」について調べ学習を行いました。グループ毎にテーマを決めて行いました。

【佐藤管理係長】

学校でボランティアを行っている人のレベルアップを図書館でできないかということですが、現在、図書館サポーター制度の充実に努めているので、これが一段落した段階で検討していきたいと考えています。

【加藤委員】

すべて図書館で行わなくても、他で行っている施設を図書館が紹介することも必要では。

【矢口委員】

いろいろな施設を利用した人の中では、小中学校時代に図書館を利用した人が、生涯利用率が高いというデータもあります。

【埜崎委員】

朝の読書を行っていない学校もあるようですが。図書館側から働きかけを行っていますか。

【佐藤管理係長】

平成16年度では、期間・学年など一部実施を含めれば、小・中学校共90%以上が実施しています。

【鹿島委員】

教育指導課では朝読書を実施している学校と実施していない学校は把握していますが、「読書」は強制されるものでなく各学校長の判断によりますので強制はできません。働きかけはしても一律に行うわけにはいきません。

【奥津委員】

10分間の朝読書で本を読む習慣がつくだけでなく、学級が落ち着いてきたということも聞いています。

【三輪委員】

教科書の内容が薄くなっていると感じます。朝読書に力を入れて欲しい。

【秋山管理係主査】

子ども読書推進計画において、平成16年度の朝読書実施状況について、最終結果が出た段階で報告することになっています。

【中多副会長】

朝読書は、当初は教科書・雑誌・漫画以外の本ならなんでもいいので10分間黙読をするというものでした。騒がしい学級が静まるなどの効果もありました。この原点に戻ってほしい。

読書は強制すると読書嫌いになってしまうのでよくありません。

【鹿島委員】

朝読書はそれぞれの学校長がそれぞれの考えで行っています。全学年一斉でなくても一部実施でもいいから進めていくことが大切です。数値目標を設定する際にも、議論になった所で100%目標としながらも自律性が尊重されています。

【中多副会長】

行政の役割は条件整備が重要です。配本システム、情報ネットワーク、人のネットワークなどの構築が求められます。

富山県の小杉町立図書館では学校司書のスタッフルームを町立図書館内に設けました。これで図書館と学校司書のいい関係が築けるようになったそうです。人のネットワークを構築する上で参考になります。

【小杉山会長】

本日の運営協議会を終了します。